

【巻頭】

LEC会計大学院開学20周年記念特集

LEC会計大学院は開学20周年を迎えました

2005年4月の開学以来、会計・税務に携わる専門職業人養成を目的としたリカレント教育を実践してまいりました。

20年という節目を迎える、これまで支えていただきました皆さんに心からの感謝を申し上げます。



2025年9月28日 東京ドームホテルにて

2025年9月28日（日）、東京ドームホテルにて「LEC会計大学院開学20周年記念パーティー」を開催しました。

当日は100名を超える修了生、在学生・新入生、教職員、合わせて180名が参集。再会を喜び、近況を語り合う、非常に和やかな交流の会となりました。

本学が、これからも学びと交流の拠点であり続けることの大切さを改めて実感するとともに、社会の第一線で活躍する専門職人材の育成という使命を果たすべく、決意を新たにする機会となりました。

開学背景・基本理念・特色

開学背景

構造改革特別区域法に基づき、東京都千代田区の「キャリア教育推進特区」において、株式会社東京リーガルマインド設置母体となる株式会社立の会計専門職大学院。

基本理念

会計・税務に携わる専門職人材をはじめ、企業・団体の財務担当者、経営責任者、及び公務員等の広範な社会人層を主たる学生像として想定したうえで、良質かつ実践的な会計専門教育を提供する。

特色

多様な属性の社会人層に対して会計専門職業人養成を目的としたリカレント教育を実施。現職の社会人が働きながら学べる環境を整備。

LEC 会計大学院
LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTING



開学背景・基本理念・特色

20年のあゆみ 2005年～2010年

2005年

当代一流の研究者教員と実務の第一線で活躍する実務家教員、22名の社会人学生を迎えて開学



2007年

会計分野の修士論文指導を開始



2008年

リーマンショックによる監査法人の人員削減等の影響で志願者減少に直面



2010年

租税法分野の修士論文指導を開始

20年のあゆみ 2005年～2010年

20年のあゆみ 2013年～2025年

- **2013年**
LEC東京リーガルマインド大学院大学に改称
- **2015年**
履修コース制（会計コース・税法コース）を導入
- **2020年**
オンラインによるライブ授業を開始
日本CFO協会との提携に関する協定を締結
- **2023年**
IMA（米国管理会計士協会）との提携に関する協定を締結

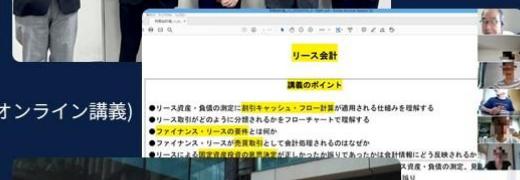
2025年 開学20周年を迎える

LEC 会計大学院
LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTING



(IMA協定)

(オンライン講義)



(懇親会)

20年のあゆみ 2013年～2025年

数字で見る20年間

2005 - 2025

累計入学者
1116名

修了者
898名

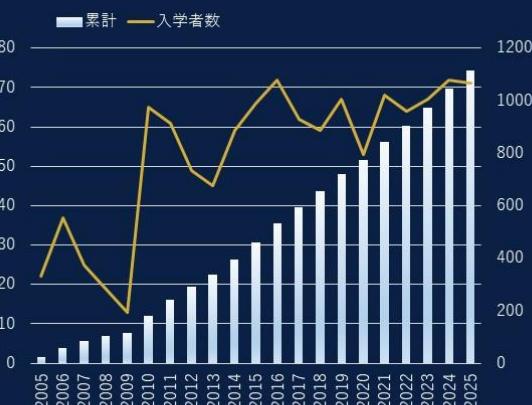
税理士試験免除認定者
408名 (税法350名 会計58名)

税理士登録者
340名

公認会計士試験合格者
11名

LEC 会計大学院
LEC GRADUATE SCHOOL OF ACCOUNTING

20年間の入学者数



20年の実績—数字で見る20年間—

Ⅰ 会長挨拶

株式会社東京リーガルマインド 取締役会長 反町勝夫



本日はご多忙の折、LEC会計大学院創立20周年記念パーティーにご臨席賜り、誠にありがとうございます。本学が20周年の節目を迎えることができることは、教育に真摯に取り組んでくださった教員の皆さま、学問に励まれた修了生の皆さま、志をもって学ばれている在学生の皆さま、大学運営を支えてくれた職員、皆さまのご尽力の賜物でございます。この場をお借りし、心より御礼申し上げます。

本学において、私が実現したかった理念は2つございます。

第一に、社会人のリカレント教育の場を提供することです。現職の社会人が働きながら学べる環境を目指して、授業は平日夜と土日中心の実施とし、仕事と授業の両立が可能になるよう配慮しました。今現在は、全授業をフルオンラインで実施しており全国どこからでも学べる環境を実現しています。

第二に、理論と実務の融合した良質な教育を提供することです。理論と実務の融合を志向した教育研究によって、高度な会計専門知識、論理的思考力、判断力、実践力、および職業倫理観を兼ね備えた、質の高い会計専門職業人を養成することです。

この2つの目標を達成するには、既存の学校法人ではなく、株式会社立の学校が望ましいと考えました。当時の規制改革の流れに沿った千代田区の「キャリア教育推進特区」によって2005年4月に株式会社立の会計専門職大学院であるLEC会計大学院を開設いたしました。

目標を実現するにあたって、特に東京大学名誉教授の諸井勝之助先生、横浜国立大学名誉教授の若杉明先生、本日ご列席いただいている慶松勝太郎先生には、多大なるご尽力を賜りました。諸井先生と若杉先生は、すでにご逝去されましたが、その功績に対し、改めて深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて税理士科目を学んできた皆さんの今後の目標設定です。世の中は法と計数によって組み立てられています。計数は、会社は利益計算、団体は組織予算、自治体は予算制度によって運営され中小企業診断士の職務に関連します。次に法のスタートは行政書士で法秩序の基盤を形成しています。税理士科目を学んだ皆さんのが今後、右に診断士、左に行政書士を携えることができれば、圧倒的に強い専門職として活躍できるでしょう。そして最後は議員の職です。自治体は1740以上もあります。この広い民主と自由の世界の議員となる専門職に皆さんがあつとも近い地位にいるといえます。

本学は創立20周年という節目を迎えましたが、今後も更なる発展を目指し、教職員一同、研鑽を重ねてまいる所存でございます。本日ご参集の修了生の皆さまには、旧交を温めていただくとともに、在学生へのご助言を賜れば幸いです。在学生の皆さんには、先輩からの貴重な体験談を糧として、今後の学びに活かしていただきたいと願っております。

結びに、本日ご臨席の皆さまのご健勝とご活躍を心より祈念申し上げ、私のご挨拶とさせていただきます。誠にありがとうございます。

I 学長挨拶

LEC会計大学院 学長 反町雄彦



本日は、大変お忙しい中にも関わらず、非常に多くの皆さまにお集まりいただき誠にありがとうございます。先ほど創業者である会長から話がありましたので、私からは手短にごあいさつを申し上げます。

LEC会計大学院開学以来、変わらず守り続けていることとして「働きながら修了できる」ということがございます。他大学院では学部からの進学者も多いですが、本学の場合は、ほぼ全員が現職を有する社会人であります。ご存じのとおり、現在では税理士志望の学生が非常に多くなり、税理士法人や会計事務所勤務者の割合が高く、皆さんそれぞれに繁忙期もある中で修士論文に取り組まれ、累計で330名を超える修了生が税理士として活躍されていることが、本学20年間のあゆみの中で一番嬉しく非常に価値のあることだと感じております。

この20年間は、決して順風満帆だったわけではなく、大きな変革を迫られる時期もありました。困難を乗り越え、ここまで進むことができた大きな要因の一つには、教員間のチームワークの良さがあげられると思います。開学以来公認会計士養成で進んできた中、2010年度からは本格的に税理士養成の道を拓き、しかも修士論文の指導においては、チーム制やマイルストーンなど、なかなか他大学院では整備できないような体制を組むことができました。本学教員組織としては、慶松勝太郎先生を代表とするプロフェッショナルな実務家の先生方と、諸井勝之助先生（東京大学名誉教授）や若杉明先生（横浜国立大学名誉教授）をはじめとする著名な研究者教員の先生方で成り立っていたわけですが、先生方がタッグを組み、LEC会計大学院を盛り上げていくために、非常にチームワークを大切にしていただいたことが大きかったと感じています。

2020年に感染症拡大という新たな危機に直面した際には、「学生の学びを止めない」ことを第一優先として、オンライン履修に切り替えを行いました。他の大学院であれば様々な壁があり実現するまで大きな困難が立ちふさがるかと思いますが、ここでも本学では先生方の素晴らしいチームワークに支えられ、非常にスムーズに切り替えができたと感じています。学生の皆さんも、オンライン履修のメリットや優位性を強く感じてくださっているかと思いますが、居住地関係なく全国から入学いただけることになったことも非常に嬉しく感じています。

本日の記念パーティー、短い時間となりますがどうぞ有意義な時間をお過ごしください。日々の実務の中での困りごとや悩みごとなども、もしかすると教員から理論的な面でアドバイスをもらえるかもしれませんし、それぞれに充実した時間を過ごしていただけましたら幸いです。

税理士は士業の中でも、独立開業後一番長く活躍できる専門職だと思います。本日この機会が皆さんの今後のキャリアにプラスとなることを祈念して、私のあいさつとさせていただきます。本日はお集まりいただき誠にありがとうございます。

Ⅰ 修了生挨拶

修了生代表 隅内道男 (2017年3月修了)



LEC会計大学院開学20周年というお祝いの席にご挨拶の礼を賜り、大変感謝申し上げます。

埼玉県川口市で税理士法人代表を務めております。30代から会計事務所の所長代理員という立場で実務を取り仕切ってまいりましたが、非常に忙しく、税理士試験に挑戦することがなかなか叶いませんでした。そのような中、当時67歳でLEC会計大学院と出会い、入学することになりました。本日久しぶりにお会いできた慶松勝太郎先生にも当時大変お世話になり、2018年3月に国税審議会に修士論文を提出いたしました。そこから7ヶ月か8ヶ月で朗報が入るかと首を長くして待っていましたが、なかなかまいりません。そして10月10日、ようやく認定通知を受け取ることができました。

いずれにしましても、60歳を過ぎてから修士論文を書くというのは至難の業でございまして、入学時に「5万字以上」と聞いた時には、原稿用紙にして何枚なのかすぐ計算し、これはもしかしたら本当に無理かもしれないと思いながら始めたわけです。そしてまさにその不安が的中し、入学から1年半は一切筆が進みませんでした。この状況を見かねて、当時の先生方が束になって指導してくださいました。そのおかげで入学後1年半を経過したタイミングでようやく目次が完成しました。ですが皆さん、皆さんも修士論文を書いているのでおわかりでしょう。そうです、目次ができればほぼ完成なんです。あとは肉付けですから。そこからどんどんと筆が進みまして、結果、5万文字どころか、12万文字の修士論文が完成しました。

そのようにLEC会計大学院を修了させてもらい、今、川口と筑波に税理士法人を立ち上げ、60名ほどの職員を抱えています。国税OBの先生方にもご協力いただき、会計事務所として地域社会に貢献をさせていただいております。

今このように活動できるのも、人生の転機を与えてもらえたのも、やはりLEC会計大学院があったからこそと思います。LEC会計大学院に心から感謝を申し上げまして、修了生代表のあいさつとさせていただきます。20周年、誠におめでとうございます。ありがとうございました。

I 在学生挨拶

在学生代表 野尻栞 (2025年4月入学)



本日は、LEC会計大学院 開学20周年記念パーティーに際し、このように在校生を代表してご挨拶の機会をいただき、誠にありがとうございます。

まず初めに、本大学院が20周年という大きな節目を迎えたことに、心よりお祝いを申し上げます。2005年の開学以来、先生方が授業や論文指導を改良し続け、また数多くの先輩方が努力を重ねてこられたからこそ、私たちは今、より充実した環境で学ぶことができています。この20年の積み重ねに、在校生の一人として深く感謝いたします。

私はこの春に入学したばかりで、大学院生活はまだ半年ほどですが、授業を受けるたびに気づきがあり、多くの刺激をいただいております。先生方のご講義やご指導から学ぶことは尽きることなく、自分の力不足を感じながらも新しい学びを得られ、論文指導の場では、自らの課題に向き合う難しさを痛感しつつ、厳しくも温かいご指導に背筋が伸びる思いです。

また、現在、本大学院では、すべての授業をオンラインで受講できる体制が整っており、場所や時間の制約を受けずに学ぶことができます。私自身も、仕事や私生活と両立しながら学びを続けられるのは、この仕組みのおかげだと実感しています。オンラインであっても内容の濃さは失われることなく、多様な背景を持つ学生が、共に学び合える環境は、本大学院ならではの特色だと感じています。

そして、修士論文を完成させ、この大学院での学びを最後までやり遂げられた卒業生の皆さまの努力の積み重ねは、在校生にとって大きな励みであり、継続する力となっております。私たちも、その姿を目標としながら、一歩ずつ努力を重ねてまいります。

20周年という節目は、これまでの歩みを振り返ると同時に、これから未来を思い描く機会でもあります。私たち在校生一同も、LEC会計大学院で培った知識や経験を、将来それぞれの仕事や活動の中で活かし、社会に少しでも役立てていけるよう努めてまいります。そして、本大学院が今後さらに発展し、より多くの学びを支える場となることを心から願っております。

改めまして、LEC会計大学院の開学20周年を心からお祝い申し上げますとともに、卒業生の皆さまのさらなるご活躍、在校生も引き続き学びを深めていくこと、そして関係者の皆さまのますますのご健勝をお祈りいたしまして、在校生代表としてのご挨拶とさせていただきます。このあとの歓談の場では、先輩皆様方との交流を楽しみにしています。本日は誠におめでとうございます。